



雲取山山行報告

【山行日】2018年 9月 11日(火)～12日(水)

【集 合】岩舟支所 P AM 6:00

【費 用】マイカー1台 : 13,300円

【メンバー】CL:鈴木、大西、福島

9月11日(火) 曇り時々霧雨 小袖登山口より七ツ石山を経由し、雲取山山頂から雲取山荘へ

岩舟支所 P6:00＝小袖登山口 P8:30/8:50～堂所

10:40～七ツ石小屋 12:00/12:30～七ツ石山 13:00/13:10～奥多摩小屋 13:30～雲取山避難小屋 14:20/14:30～雲取山 14:40～雲取山荘 15:00

F島さんから「10月の燕岳山行前に、宿泊山行を体験したい」と要望があり雲取山山行を計画した。去年、日帰りで登った小袖登山口から、七ツ石山経由で石尾根を登るコースを2日で歩くことにする。圏央道青梅ICで降り、吉野街道から青梅街道を走り奥多摩を目指す。丹波山村鴨沢で右に小袖林道に入り、狭い林道を5分程走ると村営の登山者用駐車場に着く。去年は雲取山が2017年の山として大人気で、平日でも駐車場が満車だったが今日は2台しか止まっていなかった。トイレの側に車を止め、トイレとストレッチを済ませ出発する。空は明るく青空も見えていて、これなら雨は心配ないと思い歩き出した。駐車場から左に舗装道を登って行き、数百メートルほど歩くと登山口の標識がある。ここから左に登山道に入り、植林地を登って行くと廃屋や畑の跡を通り水場に出る。ここからも杉林の薄暗い登山道を登るが、登山道は整備されとても歩き易い。所々に「平将門迷走ルート」なる看板が立ち、全部で12枚あるそうで歴史好きの人は、これを読みながら歩くのも楽しいと思う。



傾斜もきつなくお話ししながら登り、尾根筋に出た所が堂所と言われる場所だ。少し先の丸太のベンチがある場所で休憩し、グレープフルーツを食べて水分を補給する。ここからも緩やかな尾根道を登り、マムシ岩と呼ばれる石灰岩の露岩を過ぎると七ツ石小屋への分岐に出る。分岐で休憩し菓子を食べて水を飲むが、このころから霧雨が強くなってきた。七ツ石小屋に着く頃には雨粒を感じるようになり、小屋の軒先のベンチとテーブルを借りランチタイムとする。今日の

山ご飯は、ネギをたっぷり入れた醤油ラーメンにメンマとチャーシューをトッピングした豪華版。

屋根の下でゆっくり食べられ、本当にありがたかった。昼食が済んだら出発し、水場の分岐で「セツ石山に登るか、巻道を行くか」聞くと、「セツ石山に登りたい」との返事で右にセツ石山を目指す。



急坂をひと登りすると石尾根縦走路が延びる T 字路に出る。T 字路を左に進み、防火帯の広い道を登るとセツ石山山頂に着く。

山頂には石で造った立派な標識が建ち、晴れていれば360度の眺望が得られるが今日はガスが掛かり何も見えない。休憩して水分を補給し、記念写真を撮ったら雲取山に向かって石尾根を下る。下り切った所がブナ坂で、ここで巻道と合流する。ここからは展望が開けた防火帯の尾根を歩き、このコースで一番楽しいトレイルだ。

あいにく展望は無かったが、右側はキリで幻想的な自然林が広がり、左側は防火帯の草原が続き緑がとても美しい。天気は良くないが楽しく歩け、アツと言う間に奥多摩小屋に着いた。休憩を取ろうとしたが、あまりきれいな小屋でないので休まずに雲取山に向かう。この先、ヨモギノ頭、小雲取山と急登が続き、雲取山荘への巻道を右に分け急坂を九十九折れに登り切ると雲取山頂避難小屋に着く。避難小屋で一息いれ、息を整えたら山頂へ向かう。避難小屋の裏側を通り、ほんのひと登りで雲取山山頂に着く。眺望が無いので、山頂標識の前で記念写真を撮り雲取山荘へ向かう。

山頂から北側への道を下り、針葉樹林の道を下ると雲取山荘に着く。山荘で受付を済ませ、2階の部屋に落ち着き替えや荷物の整理を行う。本日の宿泊客は我々3名だけで、広い山荘を貸し切りで泊れるなんて超ラッキー！！お酒は何が良いか聞くと「何でも大丈夫です」と頼もしい返事。

暑くは無いのでビールは無しで、ワインを飲むことにする。楽しい宴会が続き、ワインが2本空いたところで夕食の時間になり食堂へ向かう。夕食のメニューはハンバーグとポテトサラダ、冷奴等が並び、とても美味しくいただいた。夕食の後は部屋に戻り、7時前には皆さん爆睡したようだ。

9月12日(水) 曇り 雲取山荘から雲取山へ登り返し、往路を戻り小袖登山口へ下る。

雲取山荘 6:30～雲取山 7:05～雲取山避難小屋 7:10/7:20～奥多摩小屋 7:50/8:00～ブナ坂 8:20～堂所 9:30/9:40～小袖登山口 P10:50/11:10＝もえぎの湯 11:45/13:00＝岩舟支所 P15:10

朝5時に起床し窓の外を見ると、昨日と同じ様な天気で霧雨が降っていた。トイレが外なので歩いて行くが、雨粒は感じず今日もレインウエアは



要らないなと思った。5時30分から朝食になり、1階の食堂へ向かう。朝食は塩鮭と焼海苔、生卵等が並び、管理人の方とお話ししながら楽しくいただいた。管理人の方が「昨夜はワインが効いたようで、早々と爆睡したようですね」と言っていた。

お話好きな方で、富士山に二千回登った方の話や、大峰山奥駈道の話などで盛り上がった。朝食が済んだら帰る支度をして、トイレを済ませて出発する。巻道は笹が濡れているので、山頂に登り返し下山

することにした。シラビソの樹林帯を登り、雲取山山頂に着くが昨日と同じ状況だった。

とりあえず山頂の記念写真を撮り、直下の避難小屋で休憩を取る。ここからは往路を戻り、登りが無いので皆楽しそうに下って行く。昨日は尾根道を忠実にたどり、ピークは全て踏んだが今日は巻



道を行き登ることは無かった。奥多摩小屋に寄り、トイレを借りて小休止する。奥多摩小屋は来年の3月末で廃止になると張り紙がある。トイレも撤去されるので、近くにあるテント場も使用できなくなる。このテント場は比較的楽に登れることから人気があり、使用できなくなると利用者にはかなり痛手になる。ここからの尾根歩きはとても楽しく、F 島さんが「天気

が良い日に是非来たいです」と言っていた。

ブナ坂に着きセツ石山に登るか聞くと、「昨日登ったからパス」との事で巻道を下る。

ここら辺から登りの登山者が多く、次々と登って来る。日帰りの方やテント泊の方が多く、雲取山荘に泊る方は今日も少ないようだ。

でも、昨日は我々3人とトレラン2組3名の6名しか登らなかったが、今日はすでに20名位すれ違った。堂所まで下ると明るくなり、霧もほとんど感じなくなる。

昨日も今日も下界は晴れていたようで、1500mから上は雲に覆われてガスの中だったようだ。



ここからは歩き易い道を下り、廃屋を過ぎると間もなく登山口に着く。舗装道を下ると、間もなく村営駐車場に着いた。空は明るく青空も見えるが、山の上は相変わらず厚い雲が掛かっていた。



靴を履き替えてトイレを済ませ、奥多摩町の「もえぎの湯」へ向かった。奥多摩駅入口の信号を過ぎ、トンネルの手前を右に入ると「もえぎの湯」に着く。ネットには休日は満車で車を止められないと書いてあったが、今日は車は数台しか止まっておらず一番奥の特等席に止められた。受付を済ませ、それぞれにロッカーの鍵を渡され大浴場へ行く。泉質は「メタほう酸・ふっ素泉」で、源泉100%の温泉は肌をすべすべにしてくれる。

温泉から上がったなら食堂へ行き、お先に生ビールをいただく。

モツ煮込みと焼き鳥を肴に飲むビールは、久しぶりに「旨い」と感じた。山を登って温泉に入り、ビールを飲むのには最高の条件を満たしており、1杯でとどめることは出来なかった。皆さんはゴマダレのうどんを食べていたが、あまり美味しそうには見えなかった。食事が済んだら岩舟支所に向かい、途中狭山PAでトイレ休憩をとる。平日なので渋滞も無く、予定より早く岩舟支所に帰着出来た。